

令和5年12月20日
(2023年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第一小学校
校長 津田 一 司

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

●国語

《概要》

知識及び技能の内容（言葉の特徴や使い方・情報の扱い方など）は全国値とほぼ同じである。思考力、判断力、表現力の内容（話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと）は全国値を下回った。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことに、課題がみられる。

書くこと

・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに、一部課題がある。

読むこと

・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことは全国値とほぼ同じである。
・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」ことに課題がみられる。

言語の特徴や使い方に関する事項

・「漢字を文の中で正しく使う」や「文章の種類と特徴」に関する問題は、全国値を上回っている。
・「日常よく使われる敬語の理解」に、課題がみられる。

●算数

《概要》

数と計算・図形・変化と関係において平均正答率は全国値を上回っている。また、データの活用においても全国値をやや上回っている。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・「二つの2位数について乗法の計算をすることができる」かを問う問題では、全国値を上回っている。
- ・「加法と乗法を混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする」ことに、課題がみられる。

図形

- ・「図形の意味や性質」を問う問題では、全国値を上回っている。
- ・「三角形の面積の大小について分かることを選び、そのわけをかく」問題では全国値を上回っている。

データの活用

- ・「二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題」や『以上（30分以上）』の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかをみる問題」では、全国値を上回っている。
- ・「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題」に、課題がみられる。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

●生活に関するアンケート

《生活について》

- ・「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きている」児童の割合は全国値を下回っている。

《総合的な学習の時間・特別活動・道徳》

- ・「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表する」ことについて、一部課題がある。

《自己肯定感について》

- ・「自分には、よいところがある」と思う児童の割合は全国値を下回っている。

《家庭学習について》

- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」児童の割合が低い。また、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾、家庭教師、インターネット学習を含む）については、平日、休日とも全くしない児童の割合が全国値を上回っている。

《地域・社会への関心について》

- ・「今すんでいる地域の行事に参加している」児童は少ない。

《いじめについて》

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」では、全国値をやや下回っている。

3. 今後の取り組み

《学習について》

国語科では漢字を使った語句を選ぶ問題において正答率も高く、全国値を上回っていることもあり、モジュール学習の時間を使って漢字学習に力をいれてきた成果が出ているといえます。漢字の意味の確認や言葉集めなどを丁寧に行い、引き続き漢字の定着に力を入れていきます。

一方で、分野に関わらず、記述問題に苦手意識を持っていることが課題です。条件作文等では、三つのうち二つしか条件を満たしていない回答が多かったです。また、どの分野でも無回答率が高かったのはすべて記述に関わる問題でした。様々なタイプの記述問題に定期的に取り組む必要があると考えています。

多くの問題で無回答率が全国値より高く、苦手な問題は取り組む前からあきらめている傾向があります。まず問題を最後まで読んでみる、全て書き終えなくても途中まで記述してみる、といった姿勢を育てることも必要だと感じています。

算数科では、分野別にみても、昨年度に引き続き、大阪府・全国を上回っているという結果でした。しかし、記述式において昨年同様、課題がみられました。文章中に出てくる単語を短絡的に捉えてしまい、問題の全容を理解せず回答してしまう児童が多かったです。そのため、算数科だけではなく、全教科で読む力を高める必要性を感じました。また、グラフを読み取る問題の無回答率も高かったです。

自分の考えを整理し、説明したり、互いに伝え合ったりする学習活動を積極的に取り入れ、自分の言葉で言語化できるように指導し、様々な問題を解く経験を増やしていきます。

《生活について》

毎日の食事の習慣や睡眠のリズムを整えることは成長期の児童には重要です。「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きている」の割合が毎年、全国値を下回る傾向にあります。基本的な生活習慣が身につくようにご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

「自分には良いところがある」と答えた児童の割合は全国値を下回っています。学校では自己肯定感・自己有用感を高められるように、「ほめる」「認める」ことを大切にしています。毎日の学習、児童会活動、地域交流、異学年交流、運動会や音楽会など様々な学校行事でも子どもたちの良さが発揮できるように活躍の場を設定していきます。ご家庭でも、子どもたちのがんばりを認め、温かい励ましの言葉を引き続きお願いいたします。「結果だけに目を向けず、努力した過程をほめる」ことが、必ず子どもたちの成長の糧になります。

「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた児童がほとんどではありますが、全ての児童が自ら「いじめは絶対にいけない」という意識をもてるように、道徳の授業やいじめ予防授業を要とし、全ての教育活動を通じて、道徳性を養い、いじめを無くすための取り組みを推進していきます。

「学校・家庭・地域」と協力して子どもたちの成長を支えられるように、今後とも、保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。